

北村農林水産副大臣の動物衛生研究所視察

平成15年7月30日(水)の午後、北村農林水産副大臣が動物衛生研究所を訪問された。この度の副大臣の農林研究団地訪問先は、当研究所のほか、つくばリサーチギャラリー、(独)農業技術研究機構本部、同畜産草地研究所、(独)森林総合研究所、(独)食品総合研究所、(独)国際農林水産業研究センターで、副大臣には秘書官が随行され、農林水産省技術会議事務局の吉田研究総務官、永田局長補佐官並びに金森筑波事務所長がご一緒された。これに対して、当研究所は、寺門理事、清水所長、齋藤総務部長、水野総合防疫研究官、山本疫学研究部長、横溝免疫研究部長、三浦安全性研究部長、品川プリオン病研究センター長、徳久生物学的製剤センター長、山中研究交流科長、村上研究企画科長が対応した。

所議室において、寺門理事の歓迎挨拶に続き、清水所長から動物衛生研究所の概要を説明したのち、プリオン病研究センターの設置趣旨と動物衛生高度研究施設を活用したプリオン病研究の展開方向を紹介した。「農林水産省食の安全・安心のための政策本部」の本部長を担当されている副大臣からは、現在カナダでのBSE発生を受けて大臣を中心に農林水産省として衛生条件等について先方との話し合いを行っていることを紹介されたうえで、BSEや人獣共通感染症等、食の安全・安心に関わる衛生問題の解決には科学的知見の集積が不可欠であることから、これまでの動物衛生研究所の科学・技術的貢献に対する感謝表明と今後の技術支援への期待が述べられた。また、獣医師でもあられる副大臣との歓談の中で、動物衛生研究所が科学委員会副議長ポストやBSE国際レファレンス研究所の指定を受けた本年5月の第71回国際獣疫事務局総会において、副大臣が日本国代表として基調演説をされたことに話題が及んだ。演説の締めくくりで発言

された科学者としての獣医師のあり方に関連して、多数の獣医師が勤務している当研究所としても大変示唆に富むお話を拝聴することができた。次いで、車中より動物衛生高度研究施設の建設現場を視察され、次の視察先に向け出発された。

短時間の訪問ではあったが、健康な動物の生産と危害要因の防除によって畜産物の安全・安心を確保するための技術開発を展開している当研究所にとって、農林水産省食の安全・安心のための政策本部長である副大臣が訪問されたこの日は大きな意味のある一日となった。

(研究企画科長)



北村農林水産副大臣は、平成15年9月8日(月)に海外病研究部も訪問された。

高度封じ込め施設の海外病特殊実験棟を視察(写真)され、福所海外病研究部長、白井海外病研究管理官より説明を受けられる副大臣。